

先週、「観測史上、最も遅い猛暑日！」なんて報道もありました。まだまだ日差しを受けると暑いですが、少しずつ秋の気配も感じられるようになってきています。あっという間に半年が過ぎ、今年度も折り返し地点を迎えました。年度初めに、子どもたちには目標を立てることの大切さを話しましたが、月末、学期の終わり、中間地点と、節目節目で目標に対しての達成具合を確認することも重要です。

目標を、今年度のゴール地点だととらえると、今、中間地点までたどり着いていないといけませんが、どうでしょうか。思ったペースで進めていないならば、残りの期間でペースアップを図らないといけません。想定以上に順調に進んでいけば、より目標を高めることもできます。逆に、思い切って目標を手前に軌道修正しないといけなかもしれません。中学生、高校生になると、学習に対してもそんな考え方をもって臨むことが求められるようになります。

私自身のことを振り返ってみると、その日暮らして、気が付くとゴールが目前に迫っていて、そこから慌てても間に合わないって日々を繰り返していました。だからこそ、目の前にいる子どもたちには、計画的に限られた時間を有効に使える人に成長して欲しいと願っています。学年の発達段階に合わせて、ご家庭でも、「今年度の中間地点」ということを話題に取り上げていただけるとありがたいです。

先週末、学校だよりの原稿を残すのを忘れて出張に出てしまいました。とりあえず、月末にお渡ししておいた方がよい、行事予定だけを先行して配らせていただいた次第です。申し訳ありませんでした。「なんで行事予定だけ？」と思っていたら、気にかけていただいているということで嬉しいですが…。以後、気を付けます。

校長 高木 盛雄

## ☆秋の夜長、“家族そろって読書”に挑戦してみませんか？！

食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋と、秋につく枕詞がたくさんあります。気候も過ごしやすくなり、実りが多く食べ物がおいしい時季、いろいろなことに打ち込みやすい季節だからでしょう。

「読書の秋」という言葉は、昔々、中国が「唐」という国名で呼ばれていたころ、韓愈という人が残した詩が起源だとも言われています。その詩は、「燈火稍可親」。「灯火に親しむべし」と訳されます。夜が長く涼しい秋には、灯をかがげて読書をするのに最適の季節という意味だそうです。

最近では、スマホのアプリで書籍も漫画も読めるようになって、便利でもあるのですが、子どもたちには1ページ1ページ、紙をめくりながら読書に夢中になる体験をさせておきたいものです。読書は、想像力や知的好奇心を育ててくれます。読み終わった後の話の続きを空想したり、自分だったらどうだろうと考えたり、こんな思考を通して、発想力の向上が期待できます。また、疑問に思っていたことや、意外な事実を知ることにより喜びを感じられるようになります。それは、知的好奇心を育てることになり、学習意欲の向上につながっていきます。

幼いうちは、「読み聞かせ」が読書の楽しさに誘ってくれます。それに加えて、こんな効果もあるとされています。膝に抱いたり、添い寝して読んだりすると、スキンシップが増します。すると、「オキシトシン」という別名“愛情ホルモン”とも呼ばれるホルモンが分泌されます。このホルモンは子どものIQやストレス耐性をアップするだけでなく、読み聞かせをする側にも幸福を感じさせてくれます。

こんな、効果抜群の読書に、ご家族で取り組んでみてください。この時間は、テレビも消して、家族そろって読書の時間！って決めてみるのもお勧めです。どんな内容だったか情報交換することで、家族の会話も盛り上がりますね。

## ☆弁護士の先生による「いじめ予防」の出前授業！

先月28日（木）に、5・6年生を対象にした出前授業をしてくださったのは、芙蓉法律事務所の山崎健一郎先生です。ドラえもんの登場人物を例にしながら、子どもたちに「いじめ」を防ぐことの大切さを語っていただきました。また、いじめの被害に遭ってしまったときに大人を頼ることの重要性を示して、命を守る行動をとるように呼び掛けていただきました。

